

## 長期経営構想 主な質問と回答

2019.9.2

※ ここでは長期経営構想に関する主な質疑応答の内容を参考として掲載しております。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社が簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

### (数値目標に関するご質問)

Q. 2030年度の数値目標について、実現可能性をどのように考えているか？

(営業利益が1,500億円まで増益する際のイメージなど)

- 当社における開発プロジェクトは、比較的期間の長いものが多い。今検討を進めている案件の中には、2030年度頃まで取り組むものがいくつもあるため、これらをしっかりと進めることができれば、数値目標の実現可能性は高いと考えている。
- 全セグメントで、足元の成長をベースとした一定の増益を見込んでいる。特に成長ドライバーと位置づけている不動産セグメントでは、賃貸ビジネスを中心に継続的な投資を考慮しており、相対的に高い増益を期待している。

### (設備投資に関するご質問)

Q. 今後の設備投資の水準は？考え方や計画があれば教えてほしい。

- 具体的な数値の積み上げではなく、目標利益からの逆算になるが、2021～2030年度までの10年間に総額で1.5兆円を超える投資（成長・維持更新投資）、中でも不動産セグメントでは、渋谷を中心に6,000億円程度の成長投資が想定されている。

### (株主還元に関するご質問)

Q. 株主還元の考え方について教えてほしい。

総還元性向30%達成後、どのように株主還元規模の拡大を目指すのか？

- 中期経営計画で掲げた、「総還元性向30%」は早期に実施したいと考えており、その後はそれが「下限」となるイメージ。積極的な投資による増益、連続増配の継続により、中長期的には配当性向30%を達成いたしたい。また投資とのバランスを考慮しながら機動的に自己株式取得の実施も検討したい。

## (鉄道事業分社化に伴う、今後の経営体制に関するご質問)

Q. 鉄道事業分社化の意義・目的について教えてほしい。

- 分社化の意義は、事業に対する専門性や人材育成、意思決定のスピードを高めることにある。事業持株会社としての東急は、各事業に対する経営資源の配分、子会社モニタリングを行っていく。

## (資金調達に関するご質問)

Q. 鉄道事業分社後の資金調達方法について。社債発行や銀行借入等は引き続き東急(株)が中心となって担うのか、東急電鉄(株)が単独で行うのか。

- これまで通り、東急(株)が資金調達を行い、連結内で資金の有効活用を行っていく。

以上